

## 第6学年国語科学習指導案

日 時 平成15年9月2日(火) 5校時  
児 童 6年2組 男14名 女17名 計31名  
指導者 大坂 越 郎

### 1 単元名 言葉と文化について考えよう(総合)

教材名 「外来語と日本文化」「現代を生きる五音、七音」(読むこと/6時間)

『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」(話すこと・聞くこと/3時間)(書くこと/4時間)

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態

児童はこれまで、「話すこと・聞くこと」では「学級討論会をしよう」の学習やスピーチ活動で、相手の立場や意見を考えながら話の内容を聞くこと、話の組み立てを工夫して話すことを学習してきた。学級討論会では、話題に対する一人一人の立場を明確にし、お互いの考えや理由を話したり聞いたりする学習を行った。スピーチ活動は、テーマを隔月で設定し、全員が必ずスピーチをできるように日常的に行っている。これらの学習を通して、話の内容を聞き取る力や話の組み立てを工夫する力が高まってきた。

「書くこと」では「ガイドブックを作ろう」の学習で、目的に応じて書く必要のある事柄を整理すること、分かりやすい構成を考え、地図や絵、文章の配置や書き方を工夫することを学習してきた。来年、修学旅行に行く5年生に読んでもらうガイドブックをつくるという学習を通して、書く必要のある事柄を取捨選択し、見てきたことと感想、意見を区別して書くことができた。また、ガイドブックとしての見やすさ、読みやすさを意識した表現の工夫をすることができた。

「読むこと」では「砂漠に挑む」の学習で、文章の内容を的確に押さえながら、要旨をとらえる学習をしてきた。意味段落の内容を読み取りながら、全体の要旨をとらえる学習を通して、内容を的確にとらえるための大事な言葉や文末表現に着目した読みの力が高まってきた。

本単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の総合単元である。児童がこれまでに身に付けてきた力を発揮しながら、学習を主体的に進められるよう配慮しながらも、さらに高い国語の力を育てたいと考える。

#### (2) 主たる指導事項

本単元の主たる指導事項は、「話すこと・聞くこと」では「考えた事や自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」、「書くこと」では「事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」、「読むこと」では「目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること」である。

「話すこと・聞くこと」では、自分の意図が分かるように話す力、「書くこと」では、自分の学習内容を分かりやすく表現する力、中間発表での友達の評価を生かして表現する力、「読むこと」では、文章の内容を的確に押さえ、要約する力を育成することが重点となる。

#### (3) 指導にあたって

本単元は、「言葉と文化」について考えるという大きなテーマで、前半は二つの説明文を読み取る学習、後半は自分で選んだ課題について調べたり、展示物を作成したりして発表する学習という構成になっている。

そこで、指導にあたっては、次のように進めていく。

- ① 第1教材「外来語と日本文化(説明文)」では、カード、カルタ、カルテという三つの言葉が、いつ、どのようにして日本語の中に入ってきたかを読み取りながら、外来語はいろいろな国の文化とのつながりの現れであることをとらえることができるようにする。
- ② 第2教材「現代を生きる五音、七音(説明文)」では、日本語が五音、七音のリズムにとっても乗りやすいものであり、だからこそ、短歌や俳句が時代をこえて多くの人に親しまれ、現代につながってきたことを読み取らせたい。そのために、教科書の作品をくり返し声に出して読み、そのリズムを味わうようにさせていく。
- ③ これら二つの説明文の読み取りを通して、言葉と文化についての関心を高め、後半の学習につなげていきたい。そのために、文章の内容を的確に押さえ、外来語や日本語の言葉のリズムの理解を深めたい。
- ④ 第3教材『言葉と文化』展示館へ、ようこそ」では、自分が選んだ課題について調べたり、展示物を作成したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。また、隣の学級や5年生を招待し、自分たちの調べたことを発表する展示館を開くという目的を明確にし、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。さらに、まとめ方(レポート、パンフレット、新聞、作品の解説など)に応じた効果的な表現方法を指導していく。

中間発表会では、自分の学習の内容や考えが、聞く人に分かりやすいような組み立てを工夫できるようにする。聞く側は、発表後に感想や質問が出せるような受容的な聞き方ができるようにする。

### 3 単元の指導目標

- (1) 国語への関心・意欲・態度
  - ・日本の言葉と文化に関心を持ち、課題を決め、解決のための方法を工夫したり、資料を探そうとしたりしている。
  - ・言葉と文化について自分の考えをもちながら文章を読み、内容を的確に押さえながら要旨をとらえようとしている。
- (2) 話すこと・聞くこと
  - ・展示物のことが分かるように、話の組み立てを工夫しながら話すことができる。(A-ア)
- (3) 書くこと
  - ・自分の課題について調べたことが正確に伝わるように、事象と感想、意見を区別して書くことができる。(B-エ)
  - ・中間発表の評価をもとに、よさを確かめたり工夫したりして書くことができる。(B-オ)
- (4) 読むこと
  - ・言葉と文化について考える目的で文章を読み、内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。(C-イ)
- (5) 言語についての知識・理解・技能
  - ・既習漢字を使って、文章を書くことができる。(ア-ア)
  - ・語句の由来や日本の伝統的な言葉のリズムに関心をもつことができる。(ウ-イ)(エ)

### 4 単元の評価規準

- (1) 国語への関心・意欲・態度
  - ①日本の言葉と文化に関心を持ち、課題を決め、解決のための方法を工夫したり、資料を探そうとしたりしている。
  - ②言葉と文化について自分の考えをもちながら文章を読み、内容を的確に押さえながら要旨をとらえようとしている。
- (2) 話すこと・聞くこと
  - ①展示物をもとに、課題を選んだ理由、感想、意見などを分かりやすく組み立てながら話す。
- (3) 書くこと
  - ①自分の興味ある課題について調べたことが正確に伝わるように、何を、どのように調べ、それをどうまとめるかをはっきりさせながら、調べて分かったことを感想や意見をふくめて書く。
  - ②中間発表会での友達の評価を生かして、付け足しや修正をしていく。
- (4) 読むこと
  - ①言葉と文化について考える目的で文章を読み、内容を的確に読み取りながら大切な文章、言葉の使い方などに着目しながら要約し、要旨をとらえる。
- (5) 言語についての知識・理解・技能
  - ①展示物などの中で、既習漢字を使って文章を書いている。
  - ②外来語の伝来や五音、七音の言葉のリズムに関心をもつ。

5 学習指導計画（13時間扱い）

時間	学習目標	学習活動	評価規準 ＜評価方法＞
1	「言葉と文化」について興味をもち、単元全体の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>例文を読み、身近な生活の中で、多くの外来語が使われていることに気付く。</li> <li>三つの教材にふれ、学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例文の中で、日本語で表現された外来語を考え、身近な生活の中で使われている外来語へ関心をもてる。</li> <li>「言葉と文化」について興味をもち、感じたことや調べたいことを発表している。</li> </ul> ＜発言意欲の観察、発言内容を聞き取る＞
2	カード、カルタ、カルテの三つの言葉に対する筆者の疑問をとらえ、学習課題を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「外来語と日本文化」を通読し、三つのまとまりに分ける。</li> <li>一のまとまりの問題提示部分に具体的な言葉を補いながら、課題提示の文を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カード、カルタ、カルテという三つの言葉の共通点や相違点に着目し、「こんなこと」の内容を具体的に読み取っている。</li> </ul> ＜教科書の線引き、ノートへの記述＞
3 4	言葉と外国の文化とのつながりをとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>二、三のまとまりを読み、課題の答えを見つめる。</li> <li>「外来語と日本文化」の内容を要約し、要旨をとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成や言葉の使い方、文末などに着目し、大切な文章、言葉を見つけて要約している。</li> </ul> ＜教科書の線引き、ノートへの記述＞
5	五音、七音の文や文章を音読し、言葉のリズムや響きの心地よさを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「現代を生きる五音、七音」を読み、例文などを音読し、言葉のリズムを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五音、七音を基調とした作品を音読し、言葉のリズムや響きのよさに気付いている。</li> </ul> ＜音読の様子を観察、発言内容を聞き取る・ノートの記述＞
6 (本時)	短歌や俳句等のリズムのよさを感じ取り、五音、七音が現代を生きる理由を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌や俳句が時代をこえて親しまれてきた理由を読み取る。</li> <li>短歌や俳句を音読し、その言葉のリズムを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌や俳句等の言葉のリズムに着目し、五音、七音が現代を生きる理由としてのリズムのよさを、作品例と結び付けて読み取っている。</li> </ul> ＜ノートの記述＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>短歌や俳句のリズムを感じながら、音読している。</li> </ul> ＜音読の様子を観察＞
7	展示物づくりの計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を読み、三つのコーナーからやりたいものを選ぶ。</li> <li>同じ課題（もしくは同じコーナー）を選んだ友達と、調べ方やまとめ方を話し合い、自分の展示物づくりの見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決のための調べ方やまとめ方の見通しを、計画プリントに書いている。</li> </ul> ＜計画プリントの記述＞
8 9	展示物づくりを進め、発表に向けての準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「何を」「どのように」調べ、「どうまとめるか」をはっきりさせながら、活動を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題を解決するために必要な資料を探したり、情報を集めたりしている。</li> </ul> ＜調べ学習の様子を観察＞ <ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことと自分の感想や意見を区別して文章を書いている。</li> <li>調べたことを分かりやすく伝えるために、効果的な表現を使っている。</li> <li>既習漢字を使っている。</li> </ul> ＜作品＞
10 11	中間発表会を行い、互いの展示物のよいところを見つれたり、改善したほうがよいところを教え合ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>できているところまで発表し、助言し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の組み立てを工夫している。</li> <li>友達の作品や発表について、よさや改善点を見つけ、発表している。</li> </ul> ＜発表、発言内容を聞き取る＞
12 13	友達の助言を生かしながら、展示物を完成させ、発表に向けての準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表での評価をもとに、付け足しや修正を行い、展示物を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助言されたことを生かし、見通しをもって手直ししている。</li> </ul> ＜計画プリントの記述、手直しした作品＞

## 6 本時の指導

### (1) ねらい

短歌や俳句等のリズムのよさを感じ取り、五音、七音が現代を生きる理由を読み取ることができる。

### (2) 評価規準

短歌や俳句等の言葉のリズムに着目し、五音、七音が現代を生きる理由としてのリズムのよさを、作品例と結びつけて読み取っている。

### (3) 展開

段階	学習活動 ○ 発問	時間 (分)	予想される児童の反応	教師のかかわり
みとおす	1 学習課題を確認する。 五音、七音には、どんなよさがあるのだろう。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の見通し、答え方を説明し、全員に課題解決できそうだという意欲をもたせる。</li> </ul>
ふかめる	2 全文を読み、五音、七音のよさを見つける。 (1) 全文を読む。 (2) よさの書いてある所に、サイドラインを引く。 (3) 五音、七音のよさについて話し合う。 ○筆者は五音、七音のよさは、どんなところだと言っていますか。  3 作品例を通して、読み取ったよさを確かめる。 ○教科書の作品を声に出して読んでみよう。  ○音読をしてみて、感じたことはありますか。  4 短歌や俳句のリズムのよさについて考える。 ○短歌と俳句と五音、七音の関係はどのように書かれていますか。	12  8  12	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語は、五音、七音のリズムにとっても乗りやすいものだ。</li> <li>五音、七音は、何回も口ずさんでいるうちに、自然にくちびるからあふれ出てくるようになるリズムだ。</li> <li>わたしたちの身の回りにある言葉が、見事に五音、七音のリズムに乗って、詩の中に収まる。</li> <li>どの作品も、リズムに乗って読めた。</li> <li>五音、七音のところで言葉を切ると読みやすかった。</li> <li>すぐに暗唱できそうな気がした。</li> <li>乗りやすいと感じなかった。</li> <li>この日本独自の言葉のリズムをもとに生まれたのが、短歌や俳句です。</li> <li>わたしたちの身の回りにある言葉が、見事に五音、七音のリズムに乗って、詩の中に収まる。</li> <li>古典として尊重されるだけでなく、時代をこえて、多くの人々が、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読みの視点は、五音、七音に関する内容であることを説明する。</li> <li>児童に、音読する目的意識をしっかりとめさせるようにする。</li> <li>児童の感想を、五音、七音のリズムは乗りやすいこと、自然にくちびるからあふれ出てくるようになることと結びつけ、これらを理由として確認する。</li> <li>リズムのよさを感じられなかった児童がいた場合は、感じられた児童にどうやったら感じられたか話してもらい、その方法を試す。</li> <li>五音、七音のリズムが、様々な表現の中に生かされていることをおさえる。</li> <li>文頭の「この」に着目し、五音、七音が日本独自の言葉のリズムであることをおさえる。</li> <li>短歌や俳句と五音、七音を基調とした作品であることをつかませ、そのリズムのよさが生かされていることをおさえる。</li> <li>「現代を生きる」につながるキーワードである「古典」と「時代を</li> </ul>

ふ か め る	<p>○短歌や俳句の古典を思い出してみよう。</p> <p>○短歌や俳句はいつ頃できたか覚えていますか。</p> <p>○短歌や俳句を声に出して読んで、五音、七音のリズムのよさを感じてみよう。</p> <p>5 五音、七音のよさについてノートにまとめる。</p> <p>○五音、七音のよさをノートに書きましょう。</p>	7	<p>その中に自分の心の世界を表現してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短歌は千年以上前</li> <li>俳句は江戸時代</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>判断基準</p> <p>A: 五音、七音のリズムの乗りやすさや覚えやすさがよさであることを読み取り、それを作品例と結びつけたり、自分の経験や生活と結びつけたりして説明している。</p> <p>B: 五音、七音のリズムの乗りやすさや覚えやすさがよさであることを読み取り、それを作品例と結びつけて説明している。</p> <p>C: 五音、七音のリズムの乗りやすさや覚えやすさがよさであることを読み取れない。</p> </div>	<p>こえて」をおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短歌や俳句の古典として、志貴皇子や松尾芭蕉の作品を提示して想起させる。</li> <li>五音七音が時代に関わらず脈々と生きてきた日本人のリズムであることに気付かせていく。</li> <li>音読する作品は自由に選ばせ、児童の興味関心を生かす。</li> <li>五音、七音のリズムのよさを感じながら音読できているか、どのように感じているか巡視する。</li> <li>指を折ったり、手拍子を合わせたりにして、リズムのよさを感じられている児童数名に発表してもらう。</li> </ul> <p>Cへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指で五音、七音をとらえながら短歌や俳句を読ませ、言葉のリズムを確かめる。その後、繰り返し音読させ、リズムのよさを体感させる。</li> </ul>
ま と め る	<p>6 学習のまとめをする。</p> <p>○学習をして思ったことを書きましょう。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>五音、七音の作品が身の回りにあるのは、リズムのよさが理由だとわかった。</li> <li>自分でも五音七音の作品をよく作る。それには言葉のリズムがいいからだったんだな。</li> <li>ずっと昔から五音、七音というリズムが日本語の中にあっただんだな。</li> <li>音読で言葉のリズムを感じるのが楽しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想が書けない児童には、今日の学習で心に残ったこと、分かったこと、驚いたことなど、具体的な項目で声がけをし、本時の感想を引き出す。</li> </ul>

現代を生きる五音, 七音	外来語と日本文化	単元の見通し
<p>五・楽しく学習できました。( ) ( )</p> <p>・今日の学習課題は解決できましたか。( ) ( )</p>	<p>三・楽しく学習できました。( ) ( )</p> <p>・今日の学習課題は解決できましたか。( ) ( )</p>	<p>一・楽しく学習できました。( ) ( )</p> <p>・今日の学習課題は解決できましたか。( ) ( )</p> <p>二・楽しく学習できましたか。( ) ( )</p> <p>・今日の学習課題は解決できましたか。( ) ( )</p>